

# 下水道ネットワークシステムとは

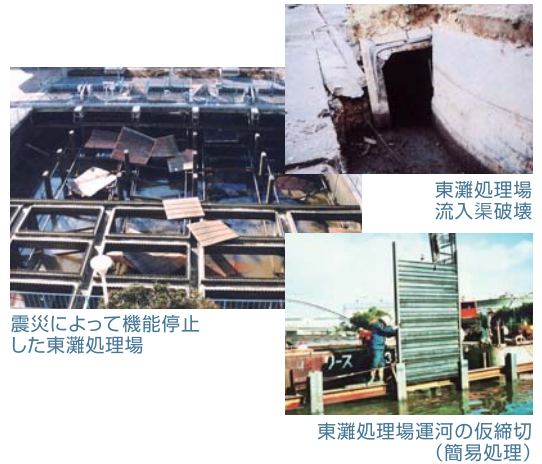
一般的な下水道システムは、家庭や工場等から排出される汚水を、地下に埋設した下水道管きよを通じて1つの下水処理場に集め処理します。

下水道ネットワークシステムは、汚水の集め方は同じですが、1つの下水処理場からさらに別の下水処理場へ大口径の下水道管きよ(ネットワーク幹線)で繋がります。このネットワーク幹線を利用して、集めた汚水を他の下水処理場へ送ることができるため、複数の下水処理場で汚水処理が可能になります。

## 災害に強いシステム

平成7年1月に起こった阪神・淡路大震災で、下水道は大きな被害を受け、東灘処理場は約100日もの間、汚水の処理ができませんでした。

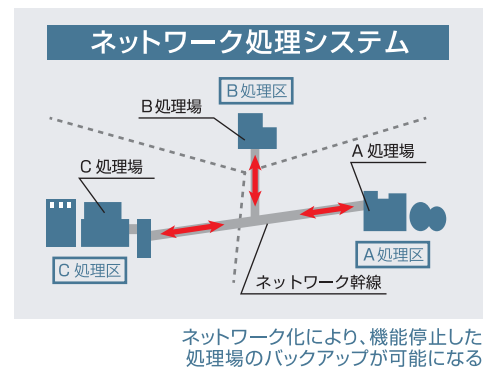
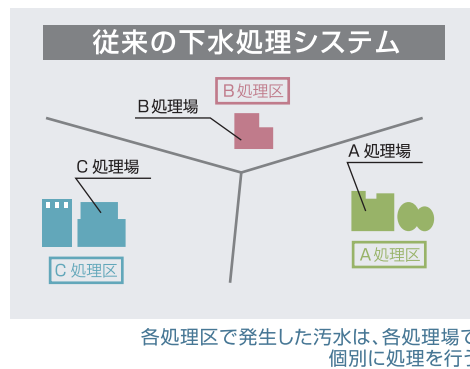
下水道ネットワークシステムの活用によって、1つの下水処理場が機能停止した場合でも汚水をネットワーク化した別の下水処理場へ送水し処理することが可能となります。



## 下水処理場のバックアップ化

今までは各処理区(東灘・中央・鈴蘭台・垂水の各処理区)で発生した汚水は、東灘・西部・中部・鈴蘭台・垂水の5つの各処理場で個別に処理を行っていました。

下水道ネットワークシステムの完成により、これからは他の処理場に汚水を送水できる(鈴蘭台処理場への送水はできません)ことから、下水処理場が機能停止した場合のバックアップが可能になります。



## 処理場間を結ぶ動脈

神戸市のネットワーク幹線は、東西方向に深く長く埋設されており、既設の汚水幹線とも有機的に連絡し、下水処理場を結ぶ動脈として活用されます。

